



ktunes
RACING

🇯🇵 M.NITTA 🇯🇵 Y.NAKAYAMA

Super GT 2018 Rd,8 MOTEGI 250Km GT Report 2018/11/10

Qualifying Day Summary

前戦のオートポリスラウンドで今季2勝目を飾り
僅かだがシリーズチャンピオンの可能性も残しているK-tunes Racing LM corsa
事前の公式テストでも好調さを示して挑んだ最終戦は
中山選手が予選Q1を10番手で突破し、新田選手が予選Q2で12位を獲得。

Qualifying Day

年間8戦で行なわれる AUTOBACS SUPER GT シリーズ。いよいよ最終戦となる「2018 AUTOBACS SUPER GT Round 8 MOTEGI GT 250km RACE GRAND FINAL」が11月10日(土)、11日(日)に栃木県にあるツインリンクもてぎで開催される。開幕戦の岡山国際サーキット大会と同様にウエットハンデのない最終戦は、マシンの素性の差が顕著に表れやすく見ごたえあるレースが展開されるのが通例となっている。あわせて、前戦で2勝目を掴みドライバーズランキングでも5番手につける K-tunes RC F GT3 に乗る新田守男／中山雄一選手はタイトル争いの圏内にある。最終戦に先立ち、10月8日(月)、9日(火)の2日間に亘り同じくツインリンクもてぎで公式テストが行なわれた。走行枠は1日あたり2時間が確保されており、数周ごとにピットインを繰り返し、セッティングを詰めるという地道な作業を繰り返しながら、二人のドライバーが走行した周回は実に189周。セッションが進むごとにタイプアップを重ね、ベストは1分47秒740をマーク。タイヤの比較テストをはじめ、決勝レースを見据えたロングランも実施し、最終戦へ向けた綿密なシミュレーションを消化した。

そして11月10日(土)には、公式練習と予選が行なわれた。8時からのFIA-F4公式予選終了後、8時50分から公式練習が始まった。路面には前日からの雨がわずかに残るウエットコンディションであり、開始時の気温は17℃、路面温度は19℃。開始早々、晴れ間が見えてきたものの多くのマシンはウエットタイヤでコースイン。K-tunes RC F GT3 は中山選手からスタートし、路面とタイヤとのマッチングを慎重にテストしていく。最初の8周は軽く流すにとどめ、走行ラインがドライコンディションに変化してきた9周目を境にタイムが向上していく。

Qualifying Day

15 周目にはベストラップ 1 分 47 秒 980 を記録。17 周目からは新田選手にチェンジし、そのまま 10 時 15 分から 10 分間の GT300 専有走行へと移行した。公式練習では、二人のドライバーが 24 周を走行し、結果は中山選手がマークした 1 分 47 秒 980 がベストタイムで、9 番手となった。10 時 45 分からのサーキットサファリ実施中も新田選手が走行を続け、その周回は 10 周に及んだ。公式練習が終了する頃には気温 20.0℃、路面温度 22.4 度まで天候は回復し、11 時 45 分から行なわれたピットウォークの頃には観客が上着を脱ぎたくなるような汗ばむほどの気候となった。

<予選>

気温 22℃、路面温度 24℃(ドライ)

公式練習終了後、サーキットサファリ、ピットウォークへとプログラムは進んでいく。そして FIA-F4 第 13 戦の決勝レースを挟んで、GT300 の予選 Q1 が実施された。全 29 台により予定通り 14 時からのスタート。開始早々 K-tunes RC F GT3 とともにコースインしたのは中山選手。全 5 周のうち 4 周目まで丁寧にタイヤやブレーキに熱を入れていき、5 周目でここ一発のアタックを開始。公式練習を上回る 1 分 47 秒 429 のタイムをマークした中山選手だったが、ライバル勢もタイムアップを果たしたために予選 Q1 は 10 番手で突破することとなった。最終戦の白熱した予選は、トップから 14 番手までが 1 秒 102 のタイム内にひしめくという熾烈な闘いだった。

続く予選 Q2 は、14 時 45 分から 10 分間に亘って実施された。ドライバーズランキングにおいてわずかでも上位を狙うには、ポールポジションで得られる 1 ポイントも重要とされる局面。決勝グリッドのポールを狙う 14 台が競い合う Q2 は新田選手が担当。この時点で気温 19.7℃、路面温度は 23.3℃とタイヤグリップにとっても申し分ないコンディションを味方に、攻めた走りで 4 周目に中山選手のタイムを上回る 1 分 47 秒 319 を記録するも結果は 12 番手となった。翌日の 250km レースは 12 番グリッドからのスタートが決定した。10 番グリッドからスタートしながらも優勝を勝ち取った前戦のような奇跡を起こすべく、チーム一丸となって全力で決勝に挑む。



Team Comment



Director : 影山 正彦

前戦は入念に基礎からピットワークを練習した成果もあり、勝利を呼び込むことができました。もてぎ戦に向け10月の公式テストでは中山選手とともに最適なタイヤ選択とセッティングを見出せていたのですが、公式練習スタート時は雨。狙った条件でテストすることが難しい環境で、選択に悩みが出てしまったのが予選Q1で10番手になってしまった要因でもあります。とはいえ、チーム全体ではミスもなく皆、やり切ってくれました。抽選で選ばれるタイヤの幅が広がったとポジティブに受け止め、表彰台を目指して全力で挑んでいきます。



Driver : 新田 守男

酷暑の富士でも問題のなかったブレーキと合わせ、もてぎに最適なタイヤ選択が見つかったこともあり予選ではシングルを狙っていました。予選Q1では中山選手が突破してくれたのですが、結果的に公式練習とは同じフィーリングとはなりません。最多勝利数の更新というプレッシャーもありますが、そう簡単にはいかないことも承知しています。ただチーム全員の士気は高い状態にあるので、第3戦、第7戦のように結果を实らせたいと思います。



Driver : 中山 雄一

10月の公式テストでは、ソフトとミディアム、どちらも攻められる理想のコンパウンドを見つけることができたので自信を持って予選に挑みました。天候の回復に合わせ路面温度は順調に上がってきていたのですが、アタック途中で日差しがなくなり路面温度が上がらない時間帯に当たったのが悔しい結果に繋がりました。もてぎはフロント荷重が大きく掛かるコースなのでソフトでは辛い部分もありますが、抽選で選ばれたタイヤに運をまかせ、10番手からでも勝てた前戦に続きポディウムの真ん中に立てるよう、決勝レースに臨みたいと思います。

2018年スーパーGT レーススケジュール

▶ 11.10-11 Round.8 MOTEGI